

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570907816		
法人名	医療法人寿光会		
事業所名	ぐるーぷほむ『せきがみ』(北棟)		
所在地	秋田県		
自己評価作成日	平成27年9月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成27年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の医療機関や老人施設との連携体制が整備されており、入居者が安心出来る環境となっております。職員は、入居者が安心してその人らしく暮らせるよう理念を立て、実践出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者個々に関わる日々の必要な全ての情報を書き込むホーム独自の「生活記録ノート」を活用している。看護師もチェックしており、出勤後にまずは連絡帳と生活記録ノートの内容を確認することから一日の業務がスタートする。近隣より採れたての各種農産物を頂くことが多く、お礼にホームの「秋のキリタンボ会」に招待し、交流を図っている。今までの交流の積み重ねのお陰で、避難訓練には地域住民3名と民生委員が参加しており、見守りと誘導を手伝っていただいている。何よりも近隣の有料老人ホームや老人保健施設とは通報装置が連動しており、応援体制が心強い。食堂の窓からは広大な山々や田んぼが見え、中庭の木々や畑からも四季の移り変わりが感じられる羨ましい環境にある。外部評価に真摯に向き合う管理者の姿勢が印象的なホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「支え合い、認め合い、安らげる生活の場」を開設当初からの理念としております。その上で自分達でも理念を立て、その理念に向かって実践に努めている。	開設当初の運営理念がパンフレットに記載されている他、来客者の目に付きやすい位置に掲示されている。実践者研修に参加した職員がその伝達研修を兼ね、職員が意見を出し合い、運営理念を基に試行錯誤の末、2年前に新たなものを作成している。職員の目に付きやすい休憩所等に掲示し、職員の意識向上に努めている。	2年前に新たに作成したものの名称が曖昧なので、まずは、運営理念とは別の名称を定め、職員の共有だけでなく、玄関に掲げたり、広くアピールする等、大いに活用するよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には出来ていないが、行事や避難訓練、運営推進会議に参加して頂いている。また地域の方から野菜や果物を頂戴したり、高校生インターンシップの受入を行っている。高校に出向き、就職を控えた生徒に対し職業についての話を等して交流している。	採れたての各種農産物を近隣者より頂くことが多く、お礼にホームの「秋のキリタンボ会」に招待し、交流を図っている。交流の積み重ねが地域住民の避難訓練への参加協力につながっている。地域への貢献の一環として、昨年2月より、地域の米屋から年間を通して米を購入しており、地域の豊富で新鮮な食材の活用に向け今後も努力したいとのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の家族、介護者相談会に参加し、現場での出来事を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況、行事等の報告を行い、頂いたご意見を取り入れている。会議は午後5時30分より開始し、地域の方が参加し易いようにしている。	前回の評価結果を踏まえ、委員に参加しやすい時間帯を伺い、開催時間の見直しを実施している。委員である自治会長が入居者や職員へよく声かけをしてきており、避難訓練への地域住民の参加にも運営推進会議の効力が影響している。	長寿支援課に加え、今後は、ホームと密接な関係にある地域包括支援センターと生活保護担当者にも運営推進会議の案内を出し、参加を促進するよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の包括主催のグループホーム会議が月1回あり、ケアマネ他職員が参加出来るような講演や調理実習等に参加している。運営推進会議にご参加頂き、情報を交換している。	長寿支援課の職員が交代で毎回運営推進会議に参加しており、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関と中庭に面している窓の所には入居者様の安全を考え、施錠している。帰宅願望が強い方に対しては、落ち着かれるまで行動を共にするなどの対応をしている。	ホームで点滴が必要な際は、職員が付き添うことで拘束を回避している。入居者の特性(北棟)に応じ、玄関や居室の戸に錠をつける工夫をしている。身体拘束をしないケアの実践について、特に家族への理解促進に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	個々に学んでいるが、事業所として勉強する機会を設けていない。入浴時や更衣時など利用者の体の変化には常に注意し、報告(特変があれば原因を話合っている)している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様が日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している。研修会に管理者が参加している。利用されている入居者様を通して少しずつ理解しているが、職員全員が詳しく理解するまでに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が都度説明を行っている。又、後日の問い合わせにも応じ、ご理解とご納得を頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を用意している。又、運営推進会議などでご意見を頂いている。検討し、対応している。	医療機関受診後の家族への報告について「ちくいちには困る」との苦情があったが、家族の思いを傾聴することから始め、「少々の変化でも報告する」ホームの姿勢を理解いただいたとのこと。職員の異動については、運営推進会議や来訪された家族に伝えている。	職員の異動については、2ヶ月に一度発行している「たより」等を活用し、全家族に通知するよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映されていると考えている。職員から出た要望については管理者が法人本部に報告し、対応している。	節電に対する職員の意見から、乾燥機の使用を可能な限り減らす取り組みを実施している。物置の設置の必要性から現在法人と交渉中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の努力を把握している。代表者へ伝えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加させて頂いている。研修後、全職員に対し内容を報告、申し送り、回覧を行っている。いつでも希望者を募ることが出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他グループホームとの意見交換の場が設けられている。全職員が参加出来る研修会もあり、交流も出来ている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様からの情報収集に努め、言葉や訴えを傾聴し、安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意向を伺い、対応している。サービス導入後も、不安なことやご意見などいつでも話をし頂けるような関係(環境)作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	色々なことを教えて頂きながら、(職員と入居者様という関係ではあるが)家族という思いで対応させて頂いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を密にとり、情報交換をしながら信頼して頂けるように努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族様と相談、ご協力のもとでお墓参りなど可能な限りの支援に努めている。 ・墓参り、馴染みの理美容店の利用について家族のご協力を得ながら可能な限り本人の希望に添った支援を行っている。	年に1回の「秋のキリタンポ会」には、鹿角市や小坂町の地域の関係者や家族等、入居者にとって馴染みの方を招待し、その関係が途切れないよう努力している。地域特産の野菜やりんご、桃の出荷の余りを農家の方が無料でホームに届けてくれるとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格を理解・尊重し、孤立しないように努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入居者様やそのご家族様が安心して生活が送れるように経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム利用時やケアプランの作成時、普段の会話の中で本人から聞き取りし、その思いに沿える努めている。困難な場合はご家族様からも伺い、可能な限り入居者様の意向に沿った支援を行っている(家事、草むしりなど)。	家族からの聞き取りで草むしりが上手と知り、早速、入居者にホームの畑の草むしりを手伝ってもらったとのこと。茶碗拭きやテーブル拭き、りんごの皮むき等、可能な限り入居者の意向に沿った支援を行っている。また、その日の天気具合を見て、希望があれば法人内の車を手配して、出かけている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報、ご家族様からの情報等を把握し、理解するように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤職員からの申し送りや、最近の情報について連絡簿などから把握するようにし、一人ひとりの本日の状態を反映したケアとなるように努めている。毎日の入居者様の状態を観察している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を決め、意見を出し、入居者様やそのご家族様からご意見を伺い、介護計画を作成している。月1回のミーティング時、課題とケアの在り方を話し合っており、その後内容によってご家族様からご意見を伺いながら介護計画に反映させている。	計画作成の前段階として、日程調整を行い家族に来訪いただき、本人も加えて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。ミーティングの前に職員間で書類を回覧し、意見や気づきを記入することで、出来る限り本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方を検討する体制にある。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過記録を記入、連絡ノートに気づきや工夫を記入し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りなどには参加出来ていないが、同法人内の行事には参加して頂いている。ハーモニカや踊りのボランティアに来て頂き、楽しむ機会を設けている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族様や入居者様の希望を尊重し、かかりつけ医や薬局の変更の際には相談し、決めている。かかりつけ医、かかりつけ薬局には色々相談し易い関係を築いており、適切な医療を受けられるように支援している。	本人の主治医以外の医療機関を利用する際は、家族や本人に相談してから受診している。医療法人であることから、主治医以外にも法人の医師にアドバイスをもらえる環境にある。近くの薬局とは顔なじみの関係にあり、夜勤者が実施している内服薬の仕分け作業の軽減について前向きに協力してくれている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問する(医療連携契約)看護師に、都度一人ひとりの状態を報告している。また受診の相談や受診時の助言を得ている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者との情報交換に努めている。但し、左記のような場合に備えた病院関係者との関係作りまでには至っていない。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時やケアプラン説明時、今後についての話し合いを行っている。法人内には診療所及び老健施設があり、重度化や終末期を迎えた入居者様とそのご家族様に対して法人としての取組みを説明し、連携を図りながら対応している。	ケアプラン作成時に来訪いただいた家族に、重度化した場合や終末期のあり方について再確認をしている。ホームとしてターミナルケアは実施していないが、法人内の診療所・老人保健施設との連携を説明している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない。消防署職員を講師として招き、救命救急(AED)の勉強会を行っている。新人職員が増えたこともあり、急変時に実施できるか不安なところがあり、再度の勉強会を考えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署や自治会役員の方々のご協力を仰ぎながら年2回の訓練を実施している。周辺に同法人の施設があり、緊急時の応援体制が築かれている。また、発電機を備えている。	5月の避難訓練には、地域住民3名と民生委員が参加しており、消防署からのアドバイスで、見守りと誘導を手伝っていただいた。駆け付け訓練も実施しているが、何よりも近隣の有料老人ホームや老人保健施設とは通報装置が連動しており、応援体制が心強い。	廊下非常口の階段は、段差が大きく、歩行力の劣った方や車椅子使用者にとっては、危険なので、簡易スロープを付ける等、改修するよう希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関することが他の入居者様に知られないように言葉かけなど注意しているが、時々守られていないと思う場面もみられる。	トイレ誘導時には、他の入居者に悟られないよう何気ない誘導を心がけている。新任研修では、プライバシーの配慮の大切さの周知を図っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服やおやつを選択など、簡単なものではあるが自己決定を促している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	職員のペースになっていることが多い。ご希望を主張出来る方に関しては内容に沿うよう支援を行っているが、主張が難しい方には、その方らしいペースで過ごして頂けるように努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「その方らしさ」を心掛けている。お化粧の支援や、クリームなどが引き続き使用出来るよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けが出来る方はご自身で茶碗を台所まで下げ膳して頂いている。食事の準備に関しては感染症予防の観点から一緒には行っていないが、茶碗拭きやテーブル拭きなど、出来る方にはお手伝いをして頂いている。	味噌タンポや煮りんご・干し柿をみんなで作ったり、山菜の下ごしらえを入居者と職員と一緒に楽しんでいる。干し柿は皆さんが味見し、いつのまにか無くなっているとのこと。キッチンのガスコンロの位置がカウンターの反対側に設置されており、調理の際にいつも利用者が見えない状況にある。	限られた職員数で支援する関係上、調理中の職員が利用者の状況把握ができないのは非効率なので、改修について、今後も法人に働きかけるよう期待します。
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は入居者様ご本人に合わせて対応し、提供している。水分量は、こまめに飲んで頂き確保出来るよう努めている。栄養バランスは調理時考えながら提供し、入居者様にもバランス良く食べて頂けるよう努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に対応し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で排泄時間などの情報を共有し、しぐさなどにも目配りしながら支援している。状態によって布パンツやリハビリパンツに替えて対応している。おむつに関してはご本人の状態に合わせた使用とするなどの工夫をしている。	入居者個々に関わる排泄・歯磨き・バイタル・食事・体位、入浴・シーツ等々日々の生活に必要な全ての情報を書き込むホーム独自の「生活記録ノート」を活用している。看護師もチェックしており、出勤後にまずは連絡帳と生活記録ノートの内容を確認することから一日の業務がスタートするとのこと。排泄の自立支援にノートが大いに貢献している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・薬だけに頼らず、毎朝ヨーグルトを提供し昼には寒天デザートを提供している。牛乳や冷水などを提供時間を工夫し食して頂いている。 ・簡単なリハビリ体操も含めて便秘の予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望する時間帯での入浴は出来ない。湯船の温度や入浴時間の長さなど、入居者様の希望に沿った支援を行っている。	湯船が深く、浴室の床も滑り易い素材で、ホームなりに様々な工夫してはいるものの、入居者の身体能力上、少々危険を感じる。	予算上許す範囲での湯船と床の改修について、今後も法人と交渉するよう期待します。
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度を気に掛け、快適に休んで頂けるようにしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解に努めている。薬について分からないことは調べたり、(医療連携)看護師、かかりつけ医、薬局への相談を行っている。状態の変化は受診時に医師に報告している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての方へ出来ているわけではないが、力を活かした役割の支援を行っている。体操レクやドライブに出掛けておやつを食べたり、踊りのボランティアを招くなど楽しみ毎の提供をしているが、まだまだ足りないように思える。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に沿えるよう努めている。しかし叶えられない場合もある。散歩やドライブで外出の機会を作ってはいるが職員からの働き掛けが多く、入居者様の希望に沿う形までには出来ていない。	真っ直ぐに伸びる農道・橋までのコース等、散歩コースに恵まれた環境にあり、天気に合わせて散歩を楽しんでいる。近くの観光地やチューリップ畑、花見等、思い立ったら有料老人ホームや老人保健施設の車を借用し、入居者を誘ってドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの原因になり易いため、お金の所持はご家族様管理の上で、ということにさせて頂いている。入居者様希望の物は「立替」で処理、購入している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より希望があった場合や不穏時などには、安心出来るようご家族様と電話で話が出来よう支援助している。頻回過ぎる時は時間を見て対応させて頂いている。手紙は年賀状のみになっている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ居心地の良い空間作りを心掛けている。時間によって音に配慮をしたり新鮮な空気を取り入れている。職員手作りの絵や折り紙を貼り、季節を感じて頂く工夫をしている。	夜間、職員の足音で睡眠を妨げないよう配慮している。難聴者のテレビの音量が大きいと他の入居者からの訴えで、本人・家族に相談しイヤホンを利用していたこと。食堂の窓からは広大な山々や田んぼが見え、中庭の木々や畑からも四季の移り変わりが感じられる羨ましい環境にある。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、くつろいでテレビを視聴出来るようにしている。廊下にはベンチがあり、くつろぐことが出来る空間を作っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者様の使い慣れた馴染みの家具や写真が飾られ、落ち着いて生活が送れるように配慮している。仏壇を持参されている方もいる。	自宅の仏壇や使い古した馴染みのタンスが持ち込まれ、まるで自宅の部屋と錯覚する程である。自分の居室のFF式ストーブの排気管の外壁取付位置が低く、積雪時に埋雪する状態で、入居者に寒い思いをさせないために、都度職員が除雪しなくてはならない状況にある。	居室のFF式ストーブの排気管の改修工事に向け、法人と今後も協議するよう期待します。
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印(トイレや居室などの場所を知らせる物)を分かり易く貼って目線に合わせた工夫をしている。ホーム内には手すりがあり、安全に配慮している。又、薬剤については入居者様の目に届かないようにしたり、消毒液であればそれと判るように表示している。		